



理系女性のキャリアインタビュー

素の自分を受け入れてくれる 会社だから、自分らしく働ける

JPモルガン証券株式会社 債券営業本部
法人ソリューション営業部 エグゼクティブディレクター
本田 聡子 (ほんだ・さとこ) さん

世界 60 カ国以上に拠点があり、投資銀行業務をはじめ各種金融サービスをグローバルに展開している J.P. モルガン。今回のインタビューに登場いただく本田さんは JPモルガン証券株式会社に勤務し、債券商品などを扱う法人向けフロント業務を担当しています。金融ビジネスの最前線で活躍する彼女から、現在のワークスタイルや就職活動の際に重視したポイントなどを聞きました。



Satoko Honda

大学では社会工学科に在籍し、都市計画を専攻していたのですが、就職先として金融業界に進まれたきっかけはなんですか。

*

小学生のころから大きな建築物を見るのが好きで、建築家にあこがれていたんです。それで建築や都市計画に携わりたいという想いは早くからあって、大学では迷わず建築や都市計画を学べる社会工学科を専攻しました。

ただ、いざ就職活動の時期になってもう一度冷静になって考えてみると、「この分野は生涯の仕事として本当に自分に向いているのか」という迷いが出てきて。悩んだのは、建築や都市計画に対する評価のスパンが極めて長く、多様であったこと。建築や都市計画の仕事って、できるまでも長い時間がかかりますが、自分の手がけた仕事の良し悪しはその後にいろんな人に利用されて、時間がたつて初めて評価されると思うんです。例えば、一つの建物を利用した方から「いい設計です。例え、一つの建物を利用した方から「いい設計です。例え」と言われても、それで万事OKではなくて、環境への影響や周辺地域への経済的波及効果など長期的に見なければいけない要素が複数あります。そういったことを含めて、自分が都市計画の仕事をしたときに長期でモチベーションを保てるか自信がなかったんです。一方で大学での研究を通じ、どんなに優れた都市計画プランも資金を用意できないと実行できないという金融の大切さや社会への影響力を痛感していました。それに建築と対照的で、金融は自分の手がけた仕事の評価が良くも悪くもすぐ目に見える。そういう点に魅力を感じましたね。

金融業界の中でも J.P. モルガンを選んだ理由はなんでしょうか。

*

正直なところ、フィーリングが合ったというのが大きかったです。職種や待遇制度にはそんなに興味がなく(笑)。外資系・日系企業を特に区別して見ていたわけでもありませんでした。採用選考を通じて多くの社員と話す機会を得られて、「魅力的な方が多く、この会社なら「素の自分」を受け入れてくれそう」と思ったのが入社決め手です。

当時は「外資系金融はちょっと尖っていて、目立っている人じゃないと駄目なのかな」と、思っていたのですが当社はそんなことなく。想像以上に社員に多様性があつて「いろんな人がいてもいいんじゃない」という社風が心地良く感じましたね。ほかの会社も考えていましたが、内定を貰って迷わず入社を決めました。

「女性視点での会社選び」については、実はあまり意識はしませんでした。私を採用してくれたメンターも女性でしたし、女性が数多く活躍していたのでそんなに不安はなかったですね。当社に抱いていた印象は、「いろんな人種、性格、年齢の人がいて、性別もそういった多様性の中のひとつ」という感じでした。学生時代は周りに女性が少なくてマイノリティだったので、「オフィスでは多くの女性が活き活きと働いていていいな」くらいに思っていました(笑)。

現在携わっている仕事について聞かせてください。

*

事業法人に対して債券やそのほかの金融商品などを

用いて財務の効率化、リスクマネジメント商品を提案しています。近年はマーケットの動きが激しいので、企業にとって株や為替変動によるリスクをいかに抑えるかが大切になっています。既成の商品だけでなく、海外外部などと連携して新たなスキームの導入することもあります。印象に残っているのは、日本で使われていなかったスキームを用いた提案でクライアントの課題を解決できた時のことですね。ロンドンに乗り込んでトレーダーや法務、オペレーションなどほかの部門に動いてもらうために、調整に大変苦労しましたが、やり遂げた際の達成感は大きかったですね。

仕事の成果が出たときはやはり嬉しいですよ。いろんな人がかかわって、話し合っていて調整し、バランスを取りながらゴールまで持っていく。ひとつでもピースが欠けると駄目ですから、パズルを完成させたときのような充実感があります。

女性が働く環境としてはどうでしょうか。

私が所属するフロント部門でも女性が多く活躍していて、全社的に見ると約半数は女性です。外資系金融で働いている女性、というくと、男勝りの女性をイメージする方もいるかもしれませんが、実際は女性らしい方が多いですよ。性別を否定して働いているわけではなく、多様性としてそのまま受け入れてくれる風土は魅力ですね。

とはいえ、日々勉強をしなければいけませんし、仕事は忙しいです。でもオンとオフの切り替えをしっかりして休むときは休む。長期休暇をとって海外に行っ

たり、早めに退社してスパにこもってリフレッシュしたりすることもあります。もちろんやるべきことはやらないといけないですが、自分の責任で一定のタイムマネジメントはできますよ。

それは結婚、出産しても同じで、出社時間や退社時間を調整している人もいます。女性だけでなく、お子さんの入学式などで休暇を取得する男性も珍しくありません。やるべきことをしっかりやりやっていたら、チーム全員でカバーしあうという風土があるので、女性が結婚、出産後も働くというのは当社ではごく自然なことですね。

最後に理系の女子学生に向けたアドバイスをお願いします。

最近気になっているのは「会社が何を与えてくれるか」ばかりを考えている方が少なくないということ。経済は、まず自分が価値を提供することでそれに対して報酬を得る、というのが原則ですから、道を用意してもらうことを期待するのではなく、女性でも、自分の足で歩いていくためにどんな環境、会社がいいのか、ということを考えてほしいですね。

もうひとつは、自分の知っていることや目に見えるものに縛られないでほしいということ。目に見えるものは、企業のブランドや制度、自身の専攻分野など。私自身、大学・大学院では建築系の専攻に進みましたが、それも長い人生の中ではたったの6年間に過ぎませんが、同じフィールドの人とばかり話している

視野が広がりませんから、いろんな人と会って視野を広げていってください。

金融業界に関心を持っている方にお伝えしたいのは、金融の専門知識はこの業界に飛び込んでからでも十分キャッチアップできるということ。当社の選考でも大学での専攻や研究分野はそれほど重視しておらず、「どんな人で、何をやりたいのか」を見ています。既に知識のある経済学部の学生に引け目を感じることはありません。理系の強みや弱みはあると思いますが、それらをしっかり理解してください。強み、は発揮し、弱み、は克服すればいいのですから。



Profile

本田 聡子
ほんだ・さとこ

JP モルガン証券株式会社
債券営業本部
法人ソリューション営業部
エグゼクティブディレクター

東京工業大学 大学院 社会理工学研究科を修了し、JPモルガン証券債券本部へ入社。2006年に他社に転職するも、2010年に再度JPモルガン証券に入社。部署、会社を異動しながらも一貫してデリバティブマーケティング・営業に携わる。